



山口育児院だより

編集・発行 / 社会福祉法人 山口育児院 2013.5.第28号
 〒753-0082 山口市水の上町5-27 Tel 083-922-1027 Fax 083-922-2389
 e-mail y-ikuji@estate.ocn.ne.jp URL http://www1.ocn.ne.jp/~y-ikuji

この度児童養護施設山口育児院の施設長という大役を与らせて頂くことになりました武重でございます。どうぞ宜しくお願い致します。

平成八年に非常勤職員として山口育児院に御縁を頂き、以来十七年間、多くの皆様にお世話になってまいりました。その間、様々な子ども達との出会いがあり、多くの経験をさせて頂きました。その中で、子ども達のそれぞれの人生の時間を共に生きるということの大切さと責任を感じています。

私は臨済宗の僧侶であり、平成二十三年に臨済宗寺院の住職に就任しました。弊師より、「寺の住職というのは檀家の皆さんに育て頂くのだ」と聞かされております。これは非常に重たい言葉として受け止めておりますが、児童養護施設でも同じことが言えると思えます。「児童養護施設の施設長は子ども達や職員の皆さんに育て



就任の御挨拶

施設長 武重俊之

て頂くのだ」と。その弊師の教えが今こそ役に立つような気がしております。

その弊師が、昨年病に倒れ、長らく入院生活をしていました。病気で身体が利かないため、病床で身体向きを変え、抱えることがありましたが、ある時「お前にやってもらう」と「やってもらった」という気になる。血が通つると「と言われたことがありました。寝たきりの身体のケアは看護師や介護士の方がいつも本当によく見てくれておりましたし、知識・技術共に素晴らしいものがありますので、当然私も身体に負担をかけないように上手にやっして下さいませ。そんなことは十分に分かった上での言葉です。さてこの言葉をどう受け止めるのか。単なる日常会話で片付けるのではなく、この教えを活かしていかなくてはならないでしょう。

その弊師も、今年三月に遷化い

たしました。大切なことは「今・ここ・自分」とよく申しますが、福祉の世界も別ものではないと身をもって示してくれたことを感謝しております。

多くの価値観が混在する現代において、その流れに対応していくことは大切なことです。しかし「和して同せず」、決して流されないように、時には勇気を持って立ち止まり、脚下を見つめ直すことを忘れず、本当に大切なことは何かを常に自問自答しながら務めてまいりたいと思えます。

私は、皆様御承知の通り浅学非才の未熟者でございます。いつ自分を見失って子ども達や皆様方に御迷惑をおかけするかわかりませんが、至らぬ故、皆様方のお力添えが不可欠でございます。どうか皆様方には今後とも御法愛を賜ります様、謹んでお願いを申し上げます。施設長就任の挨拶とさせていただきます。

	本部	施設	
経常活動による収支	措置費収入	0	113,711,441
	経常経費補助金収入	0	1,081,935
	寄附金収入	100,000	1,105,057
	雑収入	0	1,522,362
	受取利息配当金収入	70,468	544,200
	経理区分間繰入金収入	0	0
	経常収入計	170,468	117,964,995
	人件費支出	154,000	83,394,086
	事務費支出	196,697	8,102,152
	事業費支出	0	21,756,735
借入金利息支出	0	0	
経理区分間繰入金支出	0	0	
経常支出計	352,697	113,252,973	
経常活動資金収支差額	-182,229	4,712,022	
施設整備による収支	施設整備等補助金収入	0	190,000
	固定資産売却収入	0	0
	施設整備等収入計	0	190,000
	固定資産取得支出	0	2,224,635
施設整備等支出計	0	2,224,635	
施設整備等資金収支差額	0	-2,034,635	
財務活動による収支	借入金元金償還補助金収入	0	1,320,000
	投資有価証券売却収入	0	0
	積立預金取崩収入	0	0
	財務収入計	0	1,320,000
	借入金元金償還金支出	0	1,320,000
	積立預金積立支出	0	1,000,000
財務支出計	0	2,320,000	
財務活動による収支差額	0	-1,000,000	
当期資金収支差額合計	-182,229	1,677,387	

平成二十四年度決算報告
 平成二十四年度の決算報告は次の通りです。
 今後とも宜しくお願い申し上げます。

資産の部		負債の部	
流動資産	149,276,96	流動負債	449,338,00
固定資産	249,275,63	固定負債	235,530,90
基本財産	162,449,854		
その他の固定資産	86,825,779	純資産の部	
		基本金	61,852,106
		国庫補助金等特別積立金	119,103,353
		その他	61,000,000
		次期繰越活動収支差額	-5,798,599
		純資産の部合計	236,156,859
資産の部合計	264,203,329	負債及び純資産の部合計	264,203,329

歩々清風

春は日本人にとって特別な季節です。厳しい冬を乗り越えて新たな気持ちで歩き出すというイメージがあり、前向きな気持ちにさせてくれる季節です。しかし、日本には御承知の通り四季があります。無門関という書物に、

春有百花秋有月
 夏有涼風冬有雪
 若無閑事挂心頭
 便是人間好時節

という頌がありますが、これは「春夏秋冬それぞれの季節に趣がある。つまらぬことにあれこれ思い煩うことがなかつたら、即今只今が好時節である」ということです。思い煩うことをしないということは「平常心是道」と、日々過ごしていればどんなにか幸せでしょう。決して特別ではない、当たり前前の生活を大切にしたいものです。(丁)

御案内

育児院では、地域の方々に施設を利用していただく為に、いろいろなサービスを実施しています。

トワイライトサービス
 仕事の関係で帰宅が夜間になる方、お子さんの下校時より仕事終了時迄お預かり致します。

短期入所サービス
 病氣、事故、出産等でお子さんの養育が難しくなつた時等、短期間お預かり致します。

当院をご利用ご希望の方はお気軽にご連絡下さい。又ボランティアの受け入れもしております。

福祉に関心のある方、是非一度ご来院下さい。



新年度を迎えて、進学進級

平成二十五年度がスタートし、早や二ヶ月が経ちました。そろそろ落ち着いてきた頃ではないでしょうか。

山口育児院の子ども達も、この春中学校に一名、高校に四名進学いたしました。入学式当日は真新しい制服に身を包み、これから始まるであろう新学校生活に期待と希望、少しの不安を持ちながら元気に登校して行きました。特に受験を経験して掴んだ高校生活は、何よりも嬉しさで一杯だと思えます。

また、他の子ども達もそれぞれ進級をしました。学校は変わらなくても、一つ学年が上がるだけで意識も変わるようで、少しずつ成長していつている姿を見ることが出来て本当に嬉しく思います。

成長と言えば幼児さんです。今まで三歳の男の子が最年少でしたが、三月に一歳の男の子が入ってきてほんの少しお兄ちゃんになりました。お昼寝をする時に布団を敷いてくれたり、玩具を貸してあ

げたり、その度に得意な顔をしています。しかしそこはやはり幼児さんです。慣れてくるにつれて嫉妬が芽生えたのでしょうか、隙を見ては意地悪をすることも・・・。

それでも、一歳の男の子も時には喧嘩をしながら、時には泣きながら、楽しそうに幼児さん同士仲良く遊んでいます。

小学生達は、低学年と高学年では大人が思っている以上に意識が違つうようで、三年生から四年生に進級した子は顔つきが変わつてきます。しかし、「なかなか自覚が出てきたなあ」と思っていると、前と変わらない姿で、前と同じこととまた怒られていました(笑)。高学年の子達、特に六年生は小学生最後の年になります。自分達から、「来年は中学生！」と気の早いことを言っていますが、意識を持つことはとても大切なことなので、しっかりと応援していきたいと思えます。

中学生は三年生が三人います。今年はいよいよ高校受験の年です。

今年進学したお兄さんお姉さんをあらゆる意味で手本として、目標を持って悔いのないようにしっかりと取り組んで欲しいと思つていきます。

それぞれがそれぞれの目標を持って歩いていくことが何よりも大切で、何よりも幸せなことです。しかしそれは周りの力ではありません。厳しいようですが、自分自身を振り所として、自分自身の自覚と努力に拠るよりほかないのです。我々職員は、その子ども達の成長の為に少しでも力になればこれほど嬉しいことはありません。その為に尽くすことが、職員にとっても自身の成長に繋がっていくのだらうと思えます。



山口育児院礼拝文

おのれこそ
おのれのまへ
おのれをまほし
だれによもこそ
よくつゝのこ
おのれこそ
まよふかたき
よるべきせん

この礼拝文は平成十六年、山口育児院創立百周年を機にお唱えするようになったもので、法句経の一節です。

「自灯明」、自分自身を道標として、自分自身の脚で立ち、歩いていくことを目指して、皆と一緒に日々精進してまいりたいと思えます。



東鳳山登頂!

毎年恒例の東鳳山登山が、今年も連休最終日の五月六日に行われました。

午前九時、育児院を出発して一の坂ダムグラウンドまで約一時間。初めての子はその時点ですでに疲れていたようですが、その時点ではまだ登山は始まっています。そこで小休止をして、そこからようやく登山口に向けて出発です。登り始めは急な坂道が続く、子ども達は口々に「きつい」「まだ〜?」「もう無理」と何とも情

けない言葉を口にします。しかしそう言いながらも途中で挫折することなく皆最後まで登り切りました。毎年経験している子達は慣れしており、周りの景色を見ながら「まだ半分だ」「もうすぐ最後の階段がある」「この階段を登るのがきついから頑張ろう」と自分なりにペースを考へることが出来ています。早く登った子達は頂上で爽やかな風と景色を満喫していましたが、待っているうちにお腹が減つてきて・・・。頂上から下を眺めて、後の子ども達が登つてくるのが見ると下まで走つて行き励ましながら一緒に登つてきました。そして待ちに待ったお弁当です。その後頂上で皆がそろって記念撮影をしました。

お昼休憩の後、下山。帰りももちろん徒歩です。それぞれに頑張つて、午後四時、無事育児院まで帰ってきました。

爽やかな五月晴れの一日、小学生から中年(?)まで、本当によく頑張りました。

大殿地区大運動会

五月十二日、大殿地区運動会が行われました。

育児院が所属するのは東滝町内会ですが、近年の少子化で町内会からの参加児童は育児院の子ども達だけです。それでも、少数精鋭かどうかは分かりませんが、皆張り切って競技に参加しました。

最初の行進では「東滝」のプラカードを持って、なかなかきつちりと整列して・・・というわけにはいきませんでした。少人数ながら堂々たる行進をしました。



その後の競技は人数の関係で出場できる種目は限られてしまいましたが、一生懸命頑張りました。「徒競争」や「かごまり」、「台風の日」等に出ましたが、中でも子ども達が楽しんでいたので、あめ食い競争です。お菓子が絡む子ども達は目の色が変わります(笑)。顔を真っ白にしながらあめを啜え、満面の笑みを浮かべて嬉しそうに帰ってきます。そのパワーを日頃の生活や勉強に活かしてくればどんなに嬉しいか・・・(笑)。

午後からは幼児さんの徒競争があり、こちらも走つた後にお菓子を貰つて御機嫌です。来年少学校に入学する予定の子もいるので、競技参加は良い経験になったことでしょう。

プログラムの最後は「じゃんけん大殿チャンピオン」。参加者全員でのじゃんけん大会です。残念ながら全員敗退しましたが、五月晴とはいえほとんど夏のような暑さの中、最後まで皆本当によく頑張りました。